聖書日課 『からし種』 2026.11.15－11.22

11月 15日 （日） 歴代下 14章	**「こうして彼（アサ）の統治の下で国は平穏であった。主が安らぎを与えられたので、その時代この地は平穏で戦争がなかった」（4－5節）。**アサ王が主なる神を畏れ、偶像を取り除いた時、主は安らぎを与え、戦争がない時代が訪れた。富と力を国の基として求めるのではなく、主への畏れを土台にする時、人びとの心が豊かにされることを聖書は証している。
16日 （月） 歴代下 15章	**「アサはこの言葉と預言者オデドの預言を聞いて、勇気を得、ユダとベニヤミンの全土から…忌むべき偶像を除き去り…」（8節）。**「何を国の基本信仰とするか」でアサ王の周りには、誘惑と脅しの言葉が迫り、謀略と金が飛び交ったことだろう。その葛藤と闘いの中でアサ王は、預言者の言葉に勇気を得て、神の言葉に立った。私たちは誰の言葉に立つのか。
17日 （火） 歴代下 16章	**「この事について、あなたは愚かだった。今後、あなたには戦争が続く」（9節）。**アサ王はその治世41年間の多くを主なる神に従い歩んだが、36年目に、主に頼ることなくアラム王に頼んだことを、主から「あなたは愚かだった！」と厳しくとがめられてしまい、激怒した。もしも今日、主から「君は愚かだ！」との指摘を受けたなら、それを受け入れる信仰を求めたい。
18日 （水） 歴代下 17章	**「主はヨシャファトと共におられた」（3節）、「ヨシャファトの心は主の道にとどまって高められ…」（6節）。**「主はあなたと共におられる」という言葉ほど、うれしく幸いな言葉はない。ただそのために、私たちは「主の道にとどまること」を求められる。「とどまる」とは、「道を外れたときに、ちゃんと元の道に戻る」ことである。「ずれた」と気づかせてもらう時を大切にしたい。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　**大井バプテスト教会**

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2026.11.15－11.22

19日 （木） 歴代下 18章	**「しかし同時にヨシャファトはイスラエルの王に『まず主の言葉を求めてください』と言った」（4節）。**ヨシャファト王は何か行動を起こす前に、主の前に祈り、言葉を求めることを大切にした。「どんなふうに主の言葉がわかるのか？」と思うかもしれない。不思議なことに、主の前に聴こうと心を低くした時、静まった時、聖霊が私たちの心に主の御言葉を届けてくれる。
20日 （金） 歴代下 19章	**「人のためではなく、主のために裁くのだから、自分が何をなすべきか、よく考えなさい。裁きを下すとき、主があなたたちと共にいてくださるように」（6節）。**ヨシャファト王は町々に立てた裁判官に「主への恐れを持て。主のもとには不正も偏見も収賄もない」と訓示した。権力を託された者ほど、自分が大きくなった勘違いをしやすい。主への恐れを第一にして。
21日 （土） 歴代下 20章	**「そのときあなたたちが戦う必要はない。堅く立って、主があなたたちを救うのを見よ…恐れるな、おじけるな」（17節）。**自分で戦わずに共におられる主への信仰に堅く立つ。目の前に敵が迫っているときにこれほど難しいことはない。一つのヒントは、自分を攻撃し侮蔑する人々を前にした主イエスの背中を見ること。この方を見つめる時、力が注がれる。
22日 （日） 歴代下 21章	**「主は、ダビデとその子孫に絶えずともし火を与えると約束されたからである」（7節）。**ダビデとその子孫、みなそれぞれ欲に負けたりほかの神に迷ったり、失敗した彼らの間に、神の国への希望のともし火はくすぶる灯心のようになりながら、ただ主の約束のみにより受け継がれていった。マタイは、そのともし火がキリストにたどり着いたことを記したかったのだろう。

大井バプテスト教会